

癒やし、生きがいでも…

自分の体力考えて ペットと暮らそう



シニアから引き取られ、スタッフの愛情を受けて元気に過ごす犬

(静岡市の日本ドッグホーム協会)



きらやが



飼わない勇氣も

ペットを飼うシニアには「この子(ペット)がいるから、入院しない」という入もいる。自分がどれだけ元気でいられるかとペットの寿命を考え、飼うことも必要だ。シニアが病気のため飼えなくなったペットを引き取り、癒やしを求めるシニアにペットを無料で、貸し出す仕組みも始まっている。楽しくペットと暮らそう。

動物愛護団体の日本ドッグホーム協会(静岡市)は現在、シニアから犬107頭を引き取って飼育する。シニアには4頭の犬を貸し出した。代表の白井睦子さんは「ペットを飼うことで、シニアが残りの人生を有意義に過ごせるようにするのが目的」と語る。

同協会は引き取りも貸し出しも無料で、引き取りは5年前から実施。貸し出しは1年前からだ。有料で引き取る業者もいるが、数百万円単位のお金が掛かる場合もある。

白井さんは「引き取った犬は、元の飼い主にとってはわが子同然だ。時々様子は知らせている」と話す。離れても、シニアには「ペットが生きがいであること」に変わりはない。

ペットの飼育改善などに取り組む日本動物福祉協会(東京都品川区)の調査員、山口千津子さん(獣医師)は「自分の体力を考え、無理して飼わないのも動物への愛情」と話す。

シニアがペットを飼う3カ条

1. ペットを世話できる体力があるか考えよう
2. まさかの時、ペットの世話を頼める人や次の飼い主を確保しよう
3. 子犬、子猫は世話が大変。しつけができていない成犬、成猫を飼おう

(日本動物福祉協会 山口千津子さんの話から)

